

吉田修作先生を送る言葉

上田 修

吉田修作先生は、一九九〇年四月に福岡女学院大学文学部専任講師として着任し、一九九四年度福岡女学院大学文学部助教授、一九九九年度には福岡女学院大学文学部教授となられ、二〇一五年三月まで二十五年にわたり文学部専任教員として貢献されました。また、二〇一六年度および二〇一七年度は、準専任教授として教育に貢献されました。

ご存知のように、吉田先生が着任されてしばらくは、福岡女学院大学は小郡市にありました。私は、日佐キャンパスの福岡女学院短期大学におりましたので、吉田先生にお会いしたのは、大学が日佐キャンパスに移った後のこと、そして実際に会話をするようになったのは、先生と一緒に二〇一三年にスタートした言語芸術学科のカリキュラムプランを立て始めた二〇一一年頃からです。このような短い間ではありましたが、吉田先生とは大変濃い時間を一緒に過ごさせていただいたように思います。吉田先生は私にとって、公務や研究を離れた部分に触れることができた数少ない方の一人でした。

カリキュラムプランを作成している際に、フィールドワークの下調べで先生と一緒に奄美大島へ行くことがありました。奄美大島は、先生のフィールドワーカーとしての本領が発揮できる土地であるとともに、下調べに行った

皆が好きな黒糖酒の地でもありました。ですから、日中は、自然の中を歩き、研修候補地を訪ね、調査し、夜は、飲み、奄美サンシンに合わせて踊り、歌う、そんな数日間でした。吉田先生が楽しいお酒を飲まれる方だと知ったのはこの時です。

私は、ジョギングを日課としておりましたので、奄美へもシューズを持参し、時間を見つけて走ったのですが、三日目だったでしょうか、私が着替えて準備運動をしていると、後ろから「上田先生」と声がしたので振り返ると、運動着姿の吉田先生がいらっしやいました。スポーツがお好きなのだど知ったのもこの頃でした。先生と一緒に加計呂麻の海を見ながらジョギングした時に感じたあの緩やかな時間の流れは、一生忘れないと思います。

先生の本学での学務活動をご紹介します。吉田先生は二〇〇〇年度から人文学部日本文学学科長に、また、大学が日佐キャンパスに移転した二〇〇一年度から二〇〇四年度までは福岡女学院大学人文学部現代文化学科長として責務をはたされました。さらに、二〇〇五年度、福岡女学院大学人文学部長となられ、二〇一四年度までの十年間学部全体の教育・運営のリーダーとしての重責を担っておられました。先生の公平無私な姿勢と相まって、日本文学学科長、現代文化学科長さらに人文学部長として他教職員から絶大な信頼を得てきました。私は、吉田学部長の采配における懐の深さに幾度となく救われる思いをしました。

教育活動としては、ご専門の日本古代文学・民俗学関連科目に加えて、一年生のアドバイザー、二年生から四年生までのゼミを毎年担当され、行き届いた指導とケアにより、学生からも厚い信頼を得てきました。また、日本文化学科および現代文化学科での「国語科教育法Ⅲ、Ⅳ」を担当され、教員養成（国語）に貢献されました。

研究活動においては、上代文学会・古代文学会・芸能学会・万葉学会・日本民俗学会・日本文学協会・全国大学国語国文学会などに属し、これまで多くの著書・論文を執筆されております。また、小郡市文化財保護審議会委員・筑前町町史編纂委員・筑前町町史刊行委員・春日市文化財専門委員としても活動され、地域への貢献も続けておら

れます。

吉田修作先生、長い間福岡女学院大学のためにご尽力くださり、誠にありがとうございました。先生のご多幸とご活躍を心よりお祈り申し上げます。